

新型コロナウイルスに負けないで！

理事長：阪口貴子

はじめに

2020年コロナ禍の中、会員皆様のご協力により無事に事業を行うことができました。心からお礼申し上げます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新型コロナウイルスに負けないで、堅実に歩みたいと思います。ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



関係法人での新型コロナウイルス感染者の発生について

11月に入り第三波。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、12月には、奈良県でも、障害福祉施設の法人で新型コロナの感染者が出たとの報道に、より身近に新型コロナウイルスが忍び寄ってくる気がしました。

12月21日、日本医師会と日本病院会等9団体は緊迫する医療提供体制を守るため、医療緊急事態宣言を発表しました。1月7日には、1都3県に第2回目の緊急事態宣言が発出されました。

年末年始にかけて、関係法人で新型コロナウイルス感染症のクラスター事案が発生しました。

12月26日に関係法人の職員1名の感染が判明し、濃厚接触者の職員らにPCR検査を実施、全員の陰性結果報告を受け、感染者は1人だけと安堵しましたが、束の間のことでした。

発生当初は、所管保健所からの感染源・感染経路調査の問い合わせ、施設内の消毒、衛生用品の在庫確認、PCR検査、限られた職員数での支援体制整備と、隔離療養棟設置への体制づくり等の実地指導等があり、混乱の現場であったとお察しいたします。これまでに、法人内で想定はされていたと思いますが、現場では多くの課題への対応で大変な状況のようです。

小舎制（ユニット）の入所施設ですから、入院ができない利用者のために入所棟のうち1棟が隔離療養棟として設置されました。受け入れ病院がないので、施設内療養棟で、医療職が常駐できない状態の中、職員が看ておられるそうです。マスクや防護服をつけて寝ている職員もおられるそうです。

風評被害も出てきているようです。見通しが立たない状況で、職員の皆さんや、親御さんたちへのメンタルケアが必要です。



現在、通所事業は、1月17日まで閉鎖（予定）です。感染された利用者の方々の体調は軽症です。1名の方（通所利用。親が付き添いで入院）と高齢の70歳代の方とが入院をされています。その他の方々は、施設内の感染者専用の隔離療養棟で療養されています。その中で療養中のA君は、当初は、39.0℃の熱がありましたが、「今は食欲も出てきた」とお母さんからうれしい電話をいただいています。



通所のB君のお母さんからは、「子どもを朝から一日中世話をするのは大変です。あまり外出できないし……。でも何とか頑張ります」と。忍耐と体力で道を開いてきた先輩のお母さんの声として、育成会の母の姿として受け止めさせていただきました。



奈良県の新型コロナ患者の受け入れ医療機関は、11重点医療機関と民間からの2病院がコロナ専用病床として確保されましたが、1月5日現在、病床占有率71%と報道されています。新型コロナ専用病床の医療体制が逼迫すれば、知的障害のある人の1人での入院は、難しくなると思います。知的障害のある人の入院体制の整備についても大きな課題です。

現在、職員の皆さんが支え合い、一丸となって、所管保健所・行政の指導のもと、感染防止策の周知徹底に努めながら、利用者の健康観察等に対応していただいています。奈良県の福祉医療部 障害福祉課 東川課長からは、万全を期して対応すると約束をいただいています。また、1月7日に、クラスターに係る現状改善について、新型コロナウイルス感染症対策会議の県会議員さんを通じて奈良県福祉医療部、西川部長・芝池次長に「(一社)奈良県手をつなぐ育成会」の要望を伝えました。

一日でも早く収束できるように祈る思いです。みんなで、応援メッセージを送り、職員の皆さんや、家庭でわが子の支援をしている親御さんたちを支えたいと思います。

今は、誰もが、感染する状況の中にいると思います。もう一度、それぞれが、感染対策を見直してください。

2021年1月12日 記